

2007 史学会第一〇五回大会プログラム

場 所 東京大学(本郷)

二月十七日(土)

公開シンポジウム 法文二号館一番大教室 午後一時

「琉球からみた世界史」

趣旨説明
報告

古琉球をめぐる冊封関係と海域交流

近世琉球王国の「自立」——冊封・朝貢と領分のあいだ——

一八六〇(七〇年代)の清琉関係

——東アジアにおける冊封・朝貢・互市の遷移——

琉球王国の交流と冊封

近代における東アジア国際秩序の変容

タイからみた朝貢と地域秩序

シチリア王国から見た世界史

コメント

三谷 博
村井 章介
豊見山和行
川島 真
佐藤 信
與那覇 潤
小泉 順子
高山 博

二月十八日(日)

総 会・懇親会 山上会館 午後五時半 会費 三〇〇〇円

部 会

日本史部会

第一会場 (古代) 法文二号館一番大教室 研究発表 午前九時半

第二会場 (中世) 法文二号館一番大教室 研究発表 午前九時半 午後一時

第三会場 (近世・近現代) 法文一号館二二番教室 研究発表 午後一時

東洋史部会 法文一号館二三番教室 研究発表 午前一時

西洋史部会 法文一号館二五番教室 研究発表 午前九時半

日本史部会

第一会場(古代) 法文二号館一番大教室

研究発表(午前九時三〇分〜一二時)

- 1 地方軍制における押領使
 - 2 改新詔の郡の等級規定からみた国造制と屯倉制
——大化前代の地域編成——
 - 3 靈異記引用経典からみた地方の仏教
 - 4 撰関期の災異と天皇
 - 5 チャイナタウン唐坊と宗像大宮司の日宋貿易拠点・筑前国高田牧
- 日本古代史・東洋史合同シンポジウム「律令制研究の新段階」(午後一時〜五時)
趣旨説明・司会
挨拶
報告

- 1 天聖「獄官令」と宋初の司法制度
- 2 律令国家と假寧制度——令と礼の継受をめぐって——
- 3 律令倉庫制度の特質
- 4 律令制成立の諸問題

コメント

第二会場(中世) 法文二号館二番大教室

研究発表(午前九時三〇分〜一二時)

- 1 院政期の挙状と権門裁判
中世における交通——丸子地名の特性を探る——
- 2 一遍聖絵の図像学——一遍臨終場面を中心に——
- 3 中世の書跡にみる和様と唐様
- 4 中世後期における武家と受領官途——在地効果説をめぐって——
- 5 シンポジウム「人のつながり」の中世」(午後一時〜五時)
趣旨説明・司会

- 1 中世の家と朝廷社会
- 2 国人・侍の一揆とその歴史的展開
- 3 中世僧侶集団の内部規範

コメント

第三会場(近世・近現代) 法文一号館二二番教室

研究発表(午後一時)

- 1 近世近代移行期における日本海沿岸交易の発達と北前船商人
明治維新と「幽界」——明治初年の平田国学をめぐって——
- 2 帝国議会開設前後の日本陸軍——「月曜会事件」の再検討から——
- 3 永井柳太郎の対華外交論——外務参与官時代を中心に——
- 4 戦前期日本における「高等遊民」問題
——昭和初期における「左傾」問題を中心に——
- 5 戦前期における百貨店の地方進出
——大都市百貨店の地方支店設置を中心に——
- 6 昭和戦前戦中期の同業組合運動
- 7 昭和戦前戦中期の同業組合運動

東洋史部会(法文一号館一三番教室)

研究発表(午前一〇時〜一二時)

- 1 戦国『日書』と三合
- 2 東晋南朝における天下観について——王畿、神州の理解をめぐって——
- 3 唐少陽院考
- 4 宋代地方官学とその地域イメージ
- 5 研究発表(午後一時〜五時)
なせ宣教師は「消された」のか
——マニラからの遺体返還請求と乾隆中期の対外政策——
清代中国にもたらされた蘇祿の国書
清末の幕僚について——張之洞の幕僚を中心に——
二〇世紀前半の中国司法における女子財産継承権
英領マラヤにおける人口統計の変遷とマレー人概念の形成
突厥第二可汗国の歴史観——キョルヒテギン碑文東面冒頭の再検討——
アッパース朝末期(一二世紀後半〜一三世紀前半)
カリフ政権の対外関係について
民族名称「ウイグル」に関する一考察——二〇世紀前半期における
ウイグル知識人の著作および定期刊行物を事例として——

海老根量介・

- 1 シナリア遠征とアテネ民主政
- 2 古代末期シリアの修道制におけるギリシア語とシリア語
- 3 古アイルランド法文書の判決人
- 4 一三世紀における教皇のファミリア——俸給に関する史料の分析から——
- 5 イングランド内戦期の出版物にみられる国王裁判要求への反応
- 6 ドイツ絶対主義期における統治権の「神授」と領邦文化
- 7 一八世紀フランスにおける裁判行政と権力秩序
——バイロイト辺境伯ゲオルク・ウィルヘルム研究——
- 8 啓蒙改革期トスカーナ大公国におけるコムニタ令(一七七二—一七八六)
——近衛連隊の活動と地位を手がかりに——
- 9 一八世紀ロシアにおける「専制」の機能
- 10 国際連盟の社会人道面における活動と日英
ドイツにおける「女性の運動」研究の変遷

西洋史部会(法文一号館二五番教室)

研究発表(午前九時三〇分〜一二時二五分)

- 1 シナリア遠征とアテネ民主政
- 2 古代末期シリアの修道制におけるギリシア語とシリア語
- 3 古アイルランド法文書の判決人
- 4 一三世紀における教皇のファミリア——俸給に関する史料の分析から——
- 5 イングランド内戦期の出版物にみられる国王裁判要求への反応
- 6 ドイツ絶対主義期における統治権の「神授」と領邦文化
- 7 一八世紀フランスにおける裁判行政と権力秩序
——バイロイト辺境伯ゲオルク・ウィルヘルム研究——
- 8 啓蒙改革期トスカーナ大公国におけるコムニタ令(一七七二—一七八六)
——近衛連隊の活動と地位を手がかりに——
- 9 一八世紀ロシアにおける「専制」の機能
- 10 国際連盟の社会人道面における活動と日英
ドイツにおける「女性の運動」研究の変遷

姫岡	後藤	仲西	川西	小藤	石田	中渡	村秋	清山	原隆	鈴木	北村	山本	三王	中野	三松	西弘	岸本	大塚	呉座	遠藤	村井	村章	木下	宮崎	佐々	鈴木	佐藤	鈴木	大井	武井	丸山	辻山	丸正	辻美	池田	大津	服部	有富	寺西	北貞	北康	澤晶	澤裕
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----